

鎌足桜

伝説に彩られた花

木更津市鎌足桜保存会

「鎌足桜」の魅力



「鎌足桜」は、ヤマザクラの一種と考えられ、4月中旬から下旬にかけて開花する遅咲きの八重桜です。若葉の新芽が先に芽吹き、つぼみは紅色で、咲き始めると花色が淡桃白色に変化します。

清楚さと気品を兼ね備えた優美な花は、新緑に映えて見る人々を魅了します。

また、雌しべの先端が鎌状に曲がっていることから、中臣鎌子

(藤原鎌足公) 誕生伝説の由縁ともなっています。

開花後八分咲きほどになると、雌しべが中花に変化し二段咲きとなり、元花と中花とが一体となって、より一層優雅な花卉となります。そのため、長い期間、花を楽しむことができます。



「鎌足桜」を護り育てる



「鎌足桜」の祖株は、木更津市矢那小字山下にある旧家で永年育てられてきました。昭和37年頃、枯死寸前で「鎌足桜」が絶えてしまうことを心配した地元に住む鈴木治作氏が、豊中市に住む尾高正翁氏の協力を得て、京都の桜づくりの名人として有名な第15代佐野藤右衛門氏に、新芽を切り取って京都まで持参し、苗木の育成をお願いしました。

10年余りの歳月を費やし、昭和47年に2本、48年に10本の苗木が里帰りし、高蔵寺・徳蔵寺・鎌足小学校・太

田山公園などに植樹されましたが、その多くは枯れ絶えてしまったとのことです。

その後、地元でも接木による苗木の育成を手がける人が現われ、市内の各所にも植樹されるようになりました。

「鎌足桜」は、実ができないことや、挿し木による苗木の育成が難しいため、接木による苗木育成が行われてきました。この接木方法では、台木の性質が現れてしまうことがあります。

木更津市では、市の指定文化財「鎌足桜」祖株の性質をそのまま受け継いだ苗木を確保するために、平成21年に、光独立栄養培養による「容器内挿し木技術」を開発した民間会社に委託し、挿し木による増殖試験を行いました。翌年の2月に、その苗木が地元へ届き、造園家によって育てられた苗木は、平成27年3月に鎌足さくら公園に植樹されました。



鎌足さくら公園
(平成27年度コンテスト表彰作品より)

「鎌足桜」を広める

木更津市矢那小字山下に古くから伝わってきた祖株は、平成17年に木更津市指定文化財の指定を受けました。地元の区長会を中心に鎌足桜保存会が結成され、平成18年には伝説にゆかりのある高蔵寺境内とかずさ2号公園（アカデミア公園）に、祖株が移植されました。

平成19年7月には、鎌足桜保存会を発展的に解散し、「鎌足桜」の保護・育成と、広報・文化交流活動を更に大きく広げるために、新たに「木更津市鎌足桜保存会」が設立されました。



矢那川ダム公園
(平成27年度コンテスト表彰作品より)

<鎌足桜苗木の植樹活動>

保存会では、地域にある「鎌足桜」の保護活動とともに、藤原鎌足伝説にゆかりのある鎌倉浄妙寺や茨城県鹿島神宮、千葉市の青葉の森公園、泉自然公園への植樹を進めてきました。また、平成25年2月には、木



鎌足大橋下での植樹活動

更津市制施行70周年記念事業の一環として鎌足さくら公園（かずさ1号公園）に40本の鎌足桜と73本のソメイヨシノを植樹しました。

さらに「平成25～27年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業」の指定を受けたことを機会に、鎌足桜1000本植樹構想の下で、苗木の育苗を進め、鎌足地区内だけでなく木更津市内外の各地に植樹を進めると共に、保存会会員等への苗木の頒布による植樹活動を進めています。

<文化交流活動>

花の美しさとともに藤原鎌足伝説として古くから伝えられている「鎌足桜」を、文化交流活動としても進めていくために、平成26年度から「鎌足桜の魅力」写真と短歌・俳句コンテストを開催しています。応募作品の中から優れた作品を表彰するとともに、アカデミアホールアートギャラリーで展示し、多くの皆さんにも公開しています。

さらに表彰作品の中から写真短歌・写真俳句カレンダーを制作・頒布し、「鎌足桜の魅力」を多くの皆さんに知ってもらおう活動を進めています。



アカデミアホールアートギャラリー

鎌足桜ひとひら地蔵の耳飾る



公園の鎌足さくら伸びやかに
伸びゆく先につぼみ揺れるる



平成28年度コンテスト表彰作品より



大阪造幣局

明治4年に大阪市北区天満に創設され、毎年4月中旬の桜の開花時に構内淀川沿いの全長560mの通路を1週間開放、「桜の通り抜け」として知られています。現在、130種以上約360本を数え、「鎌足桜」も旧正門近くに3本が植樹されています。



稲沢市平和町桜ネックレス

平成2年に建設省の桜づつみ整備事業の一環として愛知県稲沢市の日光川に建設され、約60種類1400本の桜が植栽されています。その中にある小公園は、第16代佐野藤右衛門氏の指導のもとに整備され、「鎌足桜」も1本が植樹されています。

「鎌足桜」を観る



鎌倉浄妙寺

臨済宗建長寺派の古刹で、足利義兼により文治4年(1188)に創建。裏山に鎌足稲荷神社の小祠があり、藤原鎌足伝説とともに鎌倉の地名の由来が伝えられています。平成20年2月に、「鎌足桜」の苗木2本が保存会より寄贈され、本堂横に植樹されています。



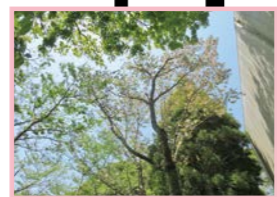
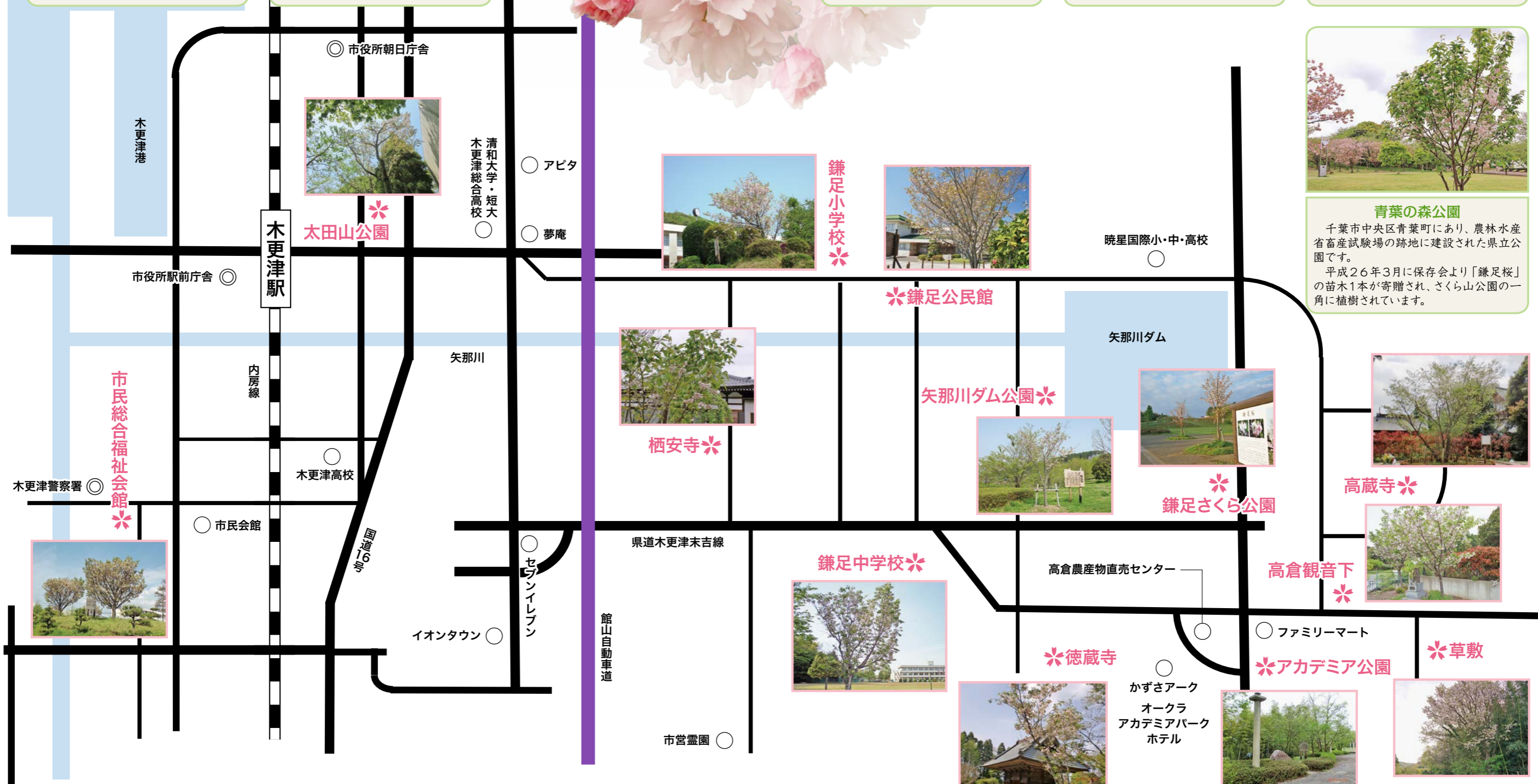
鹿島神宮

祭神は「武甕槌大神」、神武天皇元年創建とされています。近くに鎌足神社があり、古来より藤原鎌足の誕生の地とも伝えられています。平成21年2月に「鎌足桜」の苗木2本が保存会より寄贈され、そのうち1本は境内の鹿苑前に植樹されています。



憲政記念館

国会議事堂に隣接する前庭にあり、その周辺に多くの種類の桜が約150本植栽されています。毎年4月に日本さくらの会の「全国さくらまつり中央大会」が開催され、第41回(平成18年)には「鎌足桜」が記念樹として植樹されています。



太田山公園



鎌足小学校



鎌足公民館



栖安寺



矢那川ダム公園



鎌足さくら公園



高蔵寺



高倉観音下



鎌足中学校



徳蔵寺



アカデミア公園



草敷



青葉の森公園

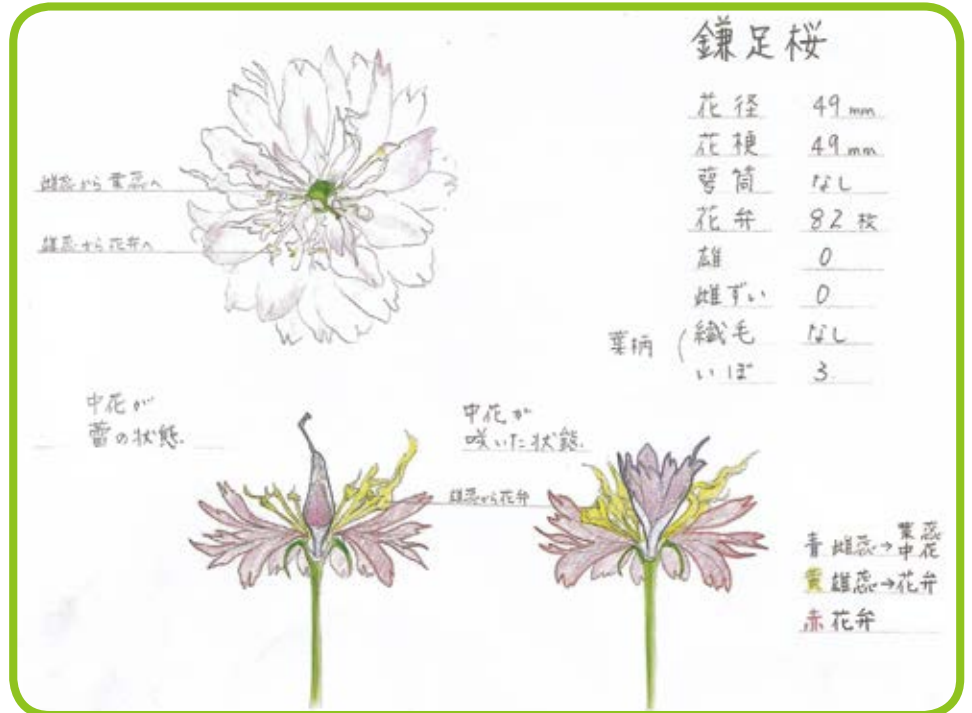
千葉市中央区青葉町にあり、農林水産省畜産試験場の跡地に建設された県立公園です。平成26年3月に保存会より「鎌足桜」の苗木1本が寄贈され、さくら山公園の一角に植樹されています。

「鎌足桜」を鑑定

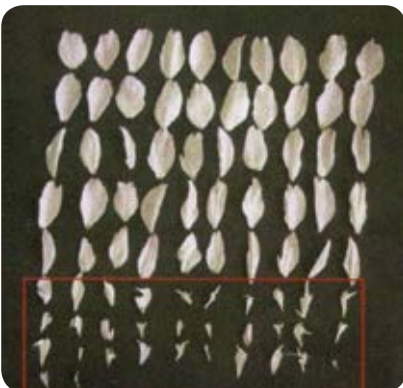


鑑定中の佐野氏

平成20年4月、本保存会の顧問になっている京都の桜守第16代佐野藤右衛門氏により、「鎌足桜」の鑑定調査が行われました。



佐野藤右衛門氏から送られてきた鑑定書



花びらをばらすと、雄しべが変化して花弁状になるため、花弁数は全体で82枚あります。

雌しべは、つぼみの状態から中花に変わり、さらに中花を包み込む葉しべにも変化しているようです。

葉しべが、仏像の舟形光背状態となって中花を受け止めていることから観音菩薩像にも見えます。



花弁に変化した雄しべも、蓮華形に作った仏像の台座状になっています。



満開時には、内側の開花した中花と外側の元花が一体化して優雅な花となり、観音桜とも呼ばれています。

「鎌足桜」の沿革

- 寛文元年（1661） 坂東三十番札所高蔵寺伝記に藤原鎌足公誕生伝説が記される。
- 天保3年（1832） 田丸健良編「房総志料続編」で、高蔵寺に「鎌足桜有り」と記される。
- 大正3年（1914） 「鎌足村誌」に、鎌足村の村名の由来とともに、「鎌足桜」の伝承が記される。
- 昭和37年（1962） 地元の鈴木治作氏により、第15代佐野藤右衛門氏に苗木育成を依頼。
- 昭和47年（1972） 2本の苗木が里帰りし高蔵寺と徳蔵寺に植樹、また佐野藤右衛門氏により大阪造幣局にも植樹。
- 昭和48年（1973） 10本の苗木が里帰りし、鎌足小学校・太田山公園などに植樹。
- 昭和60年（1985）頃 鎌足歴史散歩の会が苗木を育成し、校舎移転後の鎌足中学校・鎌足公民館等に植樹。
- 平成10年（1998） 「鎌足を考える会」が、矢那川ダムのお花見広場に鎌足桜を植樹。
- 平成16年（2004） 木更津市矢那小字山下の旧家にあった祖株が、木更津市に寄贈される。
- 平成17年（2005） 2月、「鎌足桜」の祖株が、木更津市指定文化財になる。
- 平成18年（2006） 5月、「鎌足桜」の保護育成を目的として、鎌足地区に鎌足桜保存会が結成される。
- 平成19年（2007） 2月、祖株が高蔵寺の境内と「かずさ2号公園（アカデミア公園）」に移植される。
- 平成20年（2008） 3月、「第41回さくら祭り中央大会」の記念樹として東京の憲政記念館に植樹。
- 平成21年（2009） 7月25日、地元の鎌足桜保存会を発展的に解散し、新たに木更津市鎌足桜保存会が結成される。初代会長に山口義夫氏が選出される。
- 平成22年（2010） 4月23日、定期総会が開催され、第2代会長に服部善郎氏が選出される。
- 平成23年（2011） 4月25日、第16代佐野藤右衛門氏により「鎌足桜」祖株の鑑定調査が行われる。
- 平成24年（2012） 6月、木更津市が「祖株」緑枝を採取し、光独立栄養培養による「容器内挿し木技術」を利用した苗木育成実験を（株）日本製紙グループに委託。
- 平成25年（2013） 木更津市鎌足桜保存会により「鎌足桜カレンダー」の制作・頒布を始める。
- 平成26年（2014） 挿し木による苗木育成実験が成功し、苗木93本が地元へ届けられ造園業者によって育てられる。
- 平成27年（2015） 歌謡曲「鎌足桜」（紺野あずさ作詞、岡千秋作曲、南郷達也編曲）が歌手小桜舞子により歌われCDを制作。
- 平成28年（2016） 2月17日、木更津市制施行70周年記念事業として、「鎌足さくら公園（かずさ1号公園）」に40本の鎌足桜と73本のソメイヨシノの苗木を植樹。
- 平成29年（2017） 6月、木更津市協働のまちづくり活動支援事業「鎌足桜の保護育成と広報活動を通じた地域活性化事業」に参画（25～27年度）。
- 平成30年（2018） 4～5月、第1回「鎌足桜の魅力」写真と短歌・俳句コンテストの作品募集を始める。
- 平成31年（2019） 10月、写真と短歌・俳句コンテストの表彰作品を取り入れ、写真短歌・写真俳句の鎌足桜カレンダーの制作・頒布を始める。
- 平成32年（2020） 2月、市所有の祖株からの「挿し木による苗木」40本を鎌足さくら公園に植樹。
- 平成33年（2021） 10月11日、第39回全国育樹祭で「国土緑化推進機構理事長賞」を受賞。
- 平成34年（2022） 3月20日、鎌足さくら公園矢那川ダム側斜面に53本の苗木を共同作業により植樹。
- 平成35年（2023） 4月13日、第51回さくら祭り中央大会で「さくら功労者」受賞。
- 平成36年（2024） 5月7日、平成28年度定期総会において、第3代会長に久良知 篤史氏が選出される。
- 平成37年（2025） 6月12日、第27回全国「みどりの愛護」のつどいにおいて千葉県都市緑化功労者知事表彰を受賞。
- 平成38年（2026） 5月21日、木更津市鎌足桜保存会設立10周年記念式典・講演会、及び祝賀会が開催される。
- 平成39年（2027） 5月、木更津市公園緑地の除草清掃等協力事業に参画。



第41回さくら祭り中央大会



「鎌足桜」CD



平成29年版鎌足桜カレンダー表紙

伝説に生きる「鎌足桜」



今から千四百年ほど前のこと、矢那の郷に大化の改新で功を成した大織冠藤原鎌足公の祖父猪野長官が住んでいました。長官は五十歳を過ぎても子宝に恵まれなかったため、高倉観音に参籠し子授けを祈願しました。満願百日目に妻が身ごもり、ようやく女の子を授かりました。観音様の靈験によって授かったので子与観（しよかん）と名付けられ娘は大事に育てられました。

しかし、年頃になっても嫁ぎ先がなかなか決まらなかったため、再びご利益を賜りたく観音様に祈願したところ、縁あって常陸国鹿島に嫁ぎ、男の子を授かりました。出産の時、一匹の白狐が産所に現れ、草刈鎌を授け、「この鎌は敵を切るに鋭利、国を治め幸福を得るに良し。命ずるとおりに所持せよ。」と言って、その姿は消えてしまいました。そこで、生まれた子どもに「鎌子」と名付けました。この子が「中臣鎌子」、後の「藤原鎌足公」と伝えられています。

藤原鎌足公が、高倉観音へお礼参拝のため、この地を訪れたとき、持っていた桜の木の「杖」を傍らの土手に挿して旅装束に着替えました。桜の木の「杖」は、そのまま根付きました。その後、土地の人々は鎌足公に因んで「鎌足桜」と呼ぶようになったとのこと。



「鎌足桜」の弥栄を祈る

意味
かの有名な大織冠（藤原鎌足公）がお手植えになった鎌足桜は現在に至っても大変に富み栄えていて、万世を通じて珍しい言うに言われぬ程すばらしい花を咲かせる鎌足桜の木将来の幸福を願う者でございます。

意味
この秋晴れの良き日に益々盛んな鎌足桜の株

宗夢

読み
名尔之阿ふ 大将冠
鎌足さくら盤 今ニ至
夫も 采繁昌万代
稀余累 妙木を祝

侍字
乙酉秋日

読み
日能安数尔
末すや
鎌足佐久ら株

宗夢

「鎌足桜」の祖株のあった旧家に伝わる掛軸